

中野市誌 歴史編 前編 目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

例 言

第一編 原始の中野

第一章 中野の石器時代

第一節 先土器時代の足跡

一 歴史の幕あけ

人間の出現	3	ナウマン象のいた頃	6
高地に点在する遺跡	9		

二 中野の先土器遺跡

東山山麓の遺跡	14	高社山麓の遺跡	15
長丘・高丘丘陵の遺跡	15	先土器人のくらし	21

14

3

3

3

第二節 繩文時代の展開

一 中野の繩文遺跡

遺跡のひろがり 22 遺跡のうつりかわり 27

二 繩文時代のくらし

宮反遺跡の敷石住居 34 狩猟・漁撈の道具
植物採集のくらし 37 繩文人の精神生活 35

第二章 農耕文化のおこり

第一節 弥生文化の概要

一 栗林式文化の開花

栗林遺跡の概要 42 栗林出土の土器 46
河岸の住居址 55 住居附近の土塙墓 57
栗林出土の石器 52

二 安源寺遺跡の発展

安源寺遺跡の概要 59 丘陵上の住居址 61
丘陵縁部の土塙墓群 69 安源寺の土器 74
水辺に広がっていく中野の遺跡 79
濃尾文化の土器 59

東部山麓の遺跡 83 高社山麓の遺跡 84

第一編 古代の中野

第一章 古墳の造営

第一節 古墳文化の概要

一 古墳のひろがり ······

二 古墳の概要表(一覧表) ······

第二節 市内の古墳詳説

一 東部山地の古墳 ······

桜沢附近の古墳 100

金鑑山古墳 102

高遠山古墳と姥懐古墳 115

栗和田の古墳 110

107

100

二 長峯丘陵の古墳 ······

高丘の古墳 113

発掘された丘陵の古墳 115

113

107

学術調査された丘陵の古墳 120

120

100

三 高社山麓の古墳 ······

赤岩・柳沢の山麓傾斜地の古墳 133

133

132

第二章 庶民のくらし

第一節 土師 須恵遺跡の概要

第二節 人びとのくらし

一 庶民のすみか

神宮寺下遺跡 140 壁田宮下遺跡 144 片塩遺跡 145

間山石動下遺跡 148

小田中東田遺跡 152

更科裏の山遺跡 152

二 むらの祭祀

立ヶ花城山の祭祀址 154 新井大口フ遺跡 157

三 台地のむら安源寺遺跡

古代土師器の窯 165 竈址 167 住居址群 168

土塙墓群 170

四 広がっていく集落

平地の遺跡 175 東南部山麓の遺跡 178

高丘・長丘丘陵の遺跡 179 高社山麓の遺跡 182

五 庶民の墓

第三章 中央とのかかわりあい

188

183

174

164

154

140 140

137

137

第一節 古代の中野のあゆみ

第二節 律令体制の伸張

一 大黄十五斤	188
二 信濃布	191
三 檻戸と防人	192
征夷の古道	194
物部氏の帰還	198
縫燧台	195
柵戸	197
防人	194
第三節 古代の生産遺跡	191
一 煙の絶えない須恵器の窯場	199
トンネル式無段登窯	200
須恵器の产地推定	213
半地下式無段登窯	203
二 安源寺遺跡の鍛冶屋	199
鍛冶の家と村	214
第四節 お宮とお寺	199
一 小内神社	221
二 高社神社	223

三 笠原神社	224
四 建応寺跡	225
五 如法寺	234
六 布目瓦	235
第四章 郷と牧	

第一節 郷

第二節 牧

第三節 武士たちの登場

一 中野御牧と尾藤氏	240
二 中野郷と中野氏	241
三 笠原御牧と笠原氏	242
四 金倉井御牧	242

第三編 中世の中野

第一章 進む武士の支配

第一節 源平の争乱と北信濃

一 高井地方の武士

中野氏と笠原氏 247 高梨氏と井上氏 249

二 横田川原の合戦

越後城氏と北信濃 251 合戦と高井源氏 252

第二節 鎌倉幕府の成立と中野地方

一 鎌倉御家人

中野氏 254 尾藤氏と佐藤氏 255 その他の諸氏 257

他国御家人の進出 258

二 守護の支配と国衙

比企事件と中野五郎能成 260 北條氏の支配 262

後序と北信濃 263

第三節 中野地方の牧・郷・莊園と在地領主

一 御牧・郷・莊園の發生	265
笠原牧と笠原氏	265
中世的郷の形成	269
中野御牧と秀郷流藤原氏	268
東条莊	273
二 中野郷と中野氏	275
中野郷の形成	275
中野郷西条の支配	278
中野氏の内紛	280
第二章 高梨氏の進出と中野氏の滅亡	283
第一節 内乱と激動する北信濃	283
一 中先代の乱	283
二 観応の乱と高井地方	283
野辺原・米子の戦い	285
小菅・平林の戦い	286
第二節 封建領主として発展する高梨氏	285
一 大塔の合戦	288

国人一揆	288	合戦とその影響	290
二 小笠原政康の信濃平定	292		
関東の騒擾と北信濃	292	永享の乱と結城合戦	293
三 小笠原氏の内紛と高井地方	294		
小笠原氏の分裂	294	高橋の合戦と高梨氏	295
越後と高井地方	297		
第三節 高梨氏の全盛	298		
一 高梨氏と越後	298		
長尾氏との関係	298	越後の永正の乱と高梨氏	300
二 中野氏の滅亡と高梨氏	303		
圧迫される中野氏	303	中野氏の滅亡	305
三 高梨武士団の支配体制	307		
同族結合の変化と領域支配の強化	307		
高梨氏の所領分布と本拠地	311	地侍層の編成	313
本城—支城体制	316		
第三章 甲越の争いと地元武士の行くえ	325		

第一節 高梨氏の没落と武田氏の支配

一 血涙川中島の戦い

小笠原・村上氏の没落 325

高梨氏の没落 325

二 武田氏の支配

高梨領の解体 333

武田氏と支城網 334

検地と軍役および郷村支配 338

第二節 上杉景勝の制圧と高井地方

一 武田氏の滅亡と在地の変化

武田氏残党の一揆 342

景勝の進出と高梨氏等の還住 344

その支城体制 349

上杉家臣団と地元武士 351

342

342

333

325

325

第四章 中世の社会と文化

第一節 郷村の発展

一 中世後期の郷村の特長

355

355

355

郷村成立の経路 355

農民階層

357

二 村落と用水

八か郷用水の始源 359

村落の成立と用水の具体相 363

第二節 宗教と領主層

一 中世前期の宗教

淨土・真言・天台系寺院 378

二 中世後期の宗教

禪宗寺院 383

淨土真宗の寺院 387

諏訪信仰と郷村 393

第三節 在地武士とその文化

一 高梨氏と中央文化

第四編 近世の中野

第一章 近世村落の成立

409

第一節 中野の領主

409

一 幕藩制社会の幕あき

409

高梨氏らの転封	409	森忠政の入封	414	松平忠輝の支配	416
めまぐるしい領主の変化	420	福島正則の配流	424		
二 いりみだれる支配				
三 飯山領の村々				
四 幕府領の成立				
飯山城主と支配村々	427	農政と貢租	433		
拡大する幕府領	447	前期の代官支配	452		
第二節 検地と近世村落の成立				
一 慶長期の検地				
森検地と皆川検地	467				
二 諸私領の検地と農民				
福島領検地	474	飯山領その他の検地	477		
三 幕府領の検地				
中野地域の検地	480				
検地と農民	490				
第三節 村の姿				
493		474	467	447	427
					420

一 新田開発								
	進む開発	493	新田村の成立	497				
二 村と村との争い								
	境界論	501	山論	504	水論と堰	508		
三 本百姓中心の村								
	本百姓のとり立て	512	中野町の始まり	515				
第一章 村のしくみ								
第一節 支配のしくみ								
一 代官の支配								
	中野代官所の成立	520	代官所のしくみ	528	郡中代	536		
	牢舎の管理	538	代官所の民政	542				
二 村の政治								
	村役人	546	五人組	551	寺請制	553	村の捷と運営	556
第二節 年貢制度の変遷								
	一年貢の納入	560		560	546	520	520	512
								501
								493

年貢割付状	560	石代納	564	斗安制度	569
二 年貢高の変遷				
享保以前の年貢	571	毛見取りから定免制へ	575		
三 安永の中野騒動				
明和の江戸廻米反対運動	580	安永の百姓騒動	585		
安永の新田検地	592				
第三節 村の生活				
一 村内の階層と農業經營				
重立と小前	595	マケ集団	599		
二 部落差別				
穢多身分の形成と差別の強化	603				
三 村の習俗				
若者仲間と祭	608	冠婚葬祭	610		
四 天王まつりと馬市				
中野の天王まつり	615	安源寺の馬市	619		
第四節 経済の発達				
	623				
	615				
	608				
	603				
	595				
	595				
	585				
	575				
	571				

一 商品作物の栽培	623
菜種	623
木綿	627
養蚕	631
二 農間稼ぎ	634
奉公人	634
変化した農間稼ぎ	641
三 交通の発達	643
交通網	643
中馬	649
千曲川の通船と渡船	652
四 中野町の発展	657
中野の市	657
町なみ	660
諸商人	662
第三章 村民の成長	685
第一節 豪農と小農	685
一 太る地主	685
農民階層の分解	685
質地地主制のはじまり	687
質地地主制の展開	692
二 豪農の經營	695
小作慣行	695
酒造を営む豪農	699
地主に有利な石代納	703

利潤の大きい貸金 707

第二節 災害の克服 :

一 水との闘い :

延徳耕地の治水 709
善光寺地震と水害 716

夜間瀬川の治水と利水 712

二 飢えとの闘い :

天明の飢饉 720
天保の飢饉 723

第三節 高まる農民の力 :

一 執ような訴願 :

年貢軽減の要求 726

二 村方騒動 :

組分け出入 729
村政出入 733
ひん発する村方騒動 737

第四節 支配の再編 :

一 効果のあがらぬ施策 :

寛政改革の開始 745
貯穀奨励と教化の本格化 746

745 745

	留任歎願された大原代官	748	天保改革の実施	750
	治安の亂れ	754		
二 取締役と組合村				
	取締役の任命	756	取締役の再任命と組織化	758
	組合村と組合惣代	760	具体的活動とその強化	762
第五節 村の文化				
一 村の文化人				
	小林一茶と高井の俳人たち	765	漢詩創作の結社晚晴吟社の活動	775
	山田松斎と畔上聖誕	778	和算	781
	心学の中心「明孝舎」	786	医学	784
二 寺小屋				
	寺小屋の普及	790	おしえの内容	791
三 村民の意識				
	公儀意識とお救い意識	804	訴願と村方騒動にみられる意識	806
	中農・豪農の家内繁昌意識	808	貧農の村法意識	811
四 郷土の文化遺産				
	中部地域	814		
	東部山麓地域	817		
	高社山麓地域	823		
	813	804	790	765
				756

高丘台地域 828 長丘丘陵地域 830

第四章 村体制をこえて

第一節 強まる社会不安

一 開国の影響 835

養蚕ブーム 835 米価の高騰 839

二 新しい負担 835

御用金のとりたて 843 和宮降嫁と助郷負担

兵賦の徵発 851 生糸・蚕種への課税 855

三 維新の足音 843

中央の動き 859 陣屋駆けつけ人足の充実 861

農兵隊の創設 862 農民の反抗の激化 865

第二節 維新政府の直轄へ

一 替わる支配者 868

嚮導隊の宣撫 868 北越戦争と中野 871 尾州藩取締所の支配

伊那県から中野県へ 878

二	世直しの波と豪農層		
	流入する賃金	882	北信商社の設置	886
	中野県の創設と貢租の増徴	897	千曲川の瀬直し工事	891
三	中野騒動		
	近隣諸騒動の影響	900	一揆勢の足どり	902
	騒動の性格	911	参加した人々	908
四	長野県の成立		
	長野への移庁	915	近代国家へ	917
第五編	中野の民俗			
総	説		
第一章	衣食住の生活		
第一節	衣生活		
一	着る物		
二	機織り		
928	925	925	923	
915	900	900	882	

三 草木染め

四 髪型

第二節 食生活

一 主食

二 特別食

三 おさい(副食)

四 調味料

五 食器

第三節 住居

一 概観

二 新築儀礼

三 家屋

四 住所に関する俗信

第二章 交易と運搬

第一節 交 易

一 行 商

二 仲買人

三 市

第二節 運 搬

一 生産と運搬具

二 商業の運搬具

第三章 社会生活

第一節 年齢集団

一 子ども組

二 若者組

第二節 家族集団

一 家の呼び方

二 戸主権・主婦権

第三節 マケ集団	965
一 本家と分家	966
二 社交・贈答	967
三 相互扶助	969
四 共同行事	970
第四節 地方自治	971
一 役員の仕事と選出	971
二 共同労働	975
三 共有財産	978
四 組集団	979
五 村入り	980
第四章 民間信仰	983
第一節 路傍の石神・石仏	983

一 石神・石仏の種類	983
二 石神・石仏の概況	989
第二節 講	991
一 講の概要	991
二 講の内容	992
三 中野地方の講の一覧	998
第五章 民俗知識	1002
第一節 俗信について	1002
一 禁について	1003
二 兆について	1008
三 呪について	1013
四 占について	1015
第六章 人の一生	1017
第一節 婚 姻	1017

一 結納まで
二 儀式の終了まで
三 婚姻についての俗信
1020
1017

第二節 産 育

一 出産まで
1023
1023

二 床上げまで
1025

三 誕生まで
1026

四 産育に関する俗信
1029

第三節 年祝い

第四節 葬 制

一 出棺まで
1031

二 初七日と法事
1034

第七章 年中行事

第一節 正 月

1036 1036 1034 1031 1031 1030 1029 1026 1025 1023 1023 1022 1020 1017

一 正月の準備	1063
二 正月の行事	1063
第三節 春の行事	1060
一 節分からねはん会まで	1059
二 彼岸以後の行事	1058
第四節 夏の行事	1058
一 祇園祭まで	1053
二 祇園祭からお盆まで	1051
第五節 秋の行事	1051
一 収穫祝いの行事	1049
二 えびす講以後	1046
第六節 年末と大年取り	1046
第七節 祭事	1038
第八章 祭事	1036
第一節 祭礼	

一 おねり ····

二 獅子舞い ····

第二節 青獅子と鬼獅子 ····

一 安源寺の青獅子 ····

二 草間の鬼獅子 ····

第三節 赤岩の祭事 ····

一 祭典行事表 ····

二 里宮の宵宮と神事 ····

三 宣澄踊り ····

中野市年表 ····

あとがき ····

1111

1081

1078

1074

1071

1071

1070

1068

1068

1065

1063